



ようこそ
うるおいとぬくもりの世界へ

須田 万里江 函館市立深堀中学校(3年)

第23回北海道教育美術展奨励賞作品

評

深い豊かな緑につつまれた
透明感あふれる色づかい、
ち密な画面構成や表現技法
に、願いや思いが見事に表
現されています。しなやか
で豊かな感性を感じます。

目次

根室大会に期する……………2
深く・豊かに自信をもって…新たな旅仕度を!…………3
第47回全道造形教育研究大会・根室大会…………4

私の学校・私の実践……………6
第48回全道造形教育研究大会・留萌大会…………7
第24回北海道教育美術展／あとがき……………8



北海道
造形教育
連盟報

No.104 1997.7.8 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒006 札幌市手稲区前田2条12丁目1-2

札幌市立手稲鉄北小学校 芝木秀昭

☎011-681-2287 FAX011-681-7394



根室大会に期する

北海道造形教育連盟 委員長

吉田 優 雄

(札幌市立発寒小学校 校長)

毎年、道内各地で開催されてきた全道造形教育研究大会も、47回を数えますが、今年は「今こそ郷土根室を豊かな感性で掘り起こそう！」を合い言葉に、「感性から発し、躍動する力を育む造形学習を」の研究主題のもと、大自然の懐に抱かれた根室の地で開催されます。

根室で当連盟の全道大会が開催されるのは、今回が初めてであり、しかも、管内は1市4町の非常に広い地域にまたがっていて、造形教育連盟の会員が20数名という中で大会開催に、根室の先生方の造形教育に対する情熱と、開催にあたって山積する課題をひとつずつ解決されたご苦労に、敬意と感謝の気持ちで一杯です。

また、今大会のために会場を引き受けてくださった花咲小学校の校長先生・教職員の皆様、授業や提言をしてくださる先生方、根室市教育委員会をはじめ関係諸機関の当連盟にお寄せいただいた温かいお気持ちに、先ずもって心よりお礼を申し上げたいと存じます。

昨年の第46回全道大会は、夏休みに入って間もない7月26・27日に、札幌市立山鼻小学校・札幌みなみ幼稚園を主会場に開催され、道内各地から造形教育に携わるたくさんの方々に参加いただきました。

21世紀を目前にして、変化の激しい社会に生きるこれからの子ども達にとって大切な資質や能力を育てるために、造形教育が果たしてきた役割や価値を見直し、北海道立近代美術館や北海道立三岸好太郎美術館での「アートレッスン」「造形ワークショップ」等、授業の公開や分科会の持ち方にも新しい試みがなされました。

時あたかも、中央教育審議会が文部大臣に対し「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」と題する第一次答申を行い、今後の教育の目標として「生きる力」の育成と「ゆとり」の確保を掲げ、完全学校週5日制導入の提言等が話題となっている頃でした。

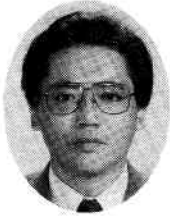
私達が造形教育において求めてきたのは、まさに「生きる力」であり、いしかり'95千歳大会では『豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を』の研究主題のもと、「生きていく中で美しさを求める心、自己の思いを表し生きていく力を育む造形教育」の方向を探り、昨年度の札幌大会主題「造形=愛・感・美・遊・創」へと引き継がれ、未来に生きる子どもにとって大切な資質として、感性や創造力の豊かさ(感・創)、弱いものや環境への優しさ(愛)、国際感覚(感・愛)、生涯学習を通しての自己実現(美・遊・創)とおさえ、今日、造形教育に求められている教材観や指導法に迫ってきました。

未来に向けて無限の可能性を内に秘めた子ども達を目の前にするとき、生涯学習の基礎を担う学校教育において、子どもの感動体験を積み重ねることにより、五感を通して培われる『感性』がキーワードとなります。

そのためには、現場の第一線にある教師が、個性尊重の原則に立って創意工夫し、教材研究や教材開発に一層力を注いでいくことが重要となってきます。

根室では、親潮の海霧と暁が織りなす風土を生かして感性を磨き合う、地域に根差した学習者主体の授業が展開されることを願っています。

平成9年度		役員・本部事務局	
委員長	吉田 優 雄	札幌市立発寒小長	事務局次長 小 尾 香
副委員長	小杉 信 雄	旭川市立神楽岡小長	伊 藤 暢 紀
"	石 井 久	函館市立日吉が丘小長	村 谷 利 一
"	鍋 谷 尊 之	別海町立上西春別小長	香 西 富士夫
"	高 橋 謙 治	留萌市立留萌中長	会 計 部 長 富 田 泰
"	奥 野 郁 男	札幌市立向陵中長	庶 務 部 長 永 井 恭 子
監 査	須 貝 徹	斜里町立以久科小長	広 報 部 長 毛 馬 内 國 夫
"	宮 川 誠 一	江別市立江別第二中長	研 究 部 長 菅 原 清 貴
事務局長	芝 木 秀 昭	札幌市立手稲鉄北小長	事 業 部 長 小 柳 雄 嗣
			札幌市立すずらん幼長
			札幌市立東園小長
			札幌市立稲陵中長
			札幌市立平岸高
			札幌市立屯田西小頭
			札幌市立中央幼長
			札幌市立桑園小
			札幌市立三角山小
			札幌市立琴似中央小



深く・豊かに自信をもって……新たな旅支度を！

北海道造形教育連盟 研究部長

菅原 清 貴

(札幌市立三角山小学校)

『みなさん、お元気ですか!』という商業コピーが流れてスタートした90年代も、「元気がない日本」というイメージが定着しつつ、あとわずかとなってきました。政治的・経済的な改革が急務であると同時に社会をかたちづくる基盤である教育も大きな改革の時をむかえています。巷では物騒な事件がテレビを賑わし、不登校やいじめなど教育の抱える問題も依然として出口が見えない状況が続いています。さらに、生活指導上で児童生徒たちが、個性や自由を履き違え、したい放題・やりたい放題で、教師はそれに対して、子供の人権や個性・主体性が重要だからといって、指導もしないで放任する。したがって、学校そのものがアナーキーの状態になっていく…ということを指摘する方もいます。子供に迎合しすぎるのが本当の教育なのだろうかとの反省も聞かれます。私たちは、子供たちの内面を探りながら、本当の意味でのコミュニケーションをとっていくことが求められています。

●造形教育に求められるもの

昨年は、札幌で大会を開催しました。愛を土台に感・美・遊・創の具現化をめざす授業を提案しました。その最中、中教審から『生きる力』の育成というテーマが出されたわけです。まさに、我々の研究の先進性を自負できた大会でもありました。「自ら課題を見付け、自分で考え、進んで問題を解決していく力」という物差しを皆さんの日常の授業実践にあてはめてみてください。対象に対して、積極的に働きかける姿がみえていますか。

対象に働きかけ感動を覚える。その豊かな感性を、教師も子供も手にしたいものです。そのことが、実現する試行錯誤の幅を一層大きくするに違いないのです。この過程の中で、子供の変化を見て取れる教科が造形教育なのです。そこに、佇む教師も子供も『自らの心をより豊かに拓く』(連盟研究主題)ことのできた、満足感いっばいの姿があるはずです。造形教育の価値を授業を通して再確認し、深く豊かな自信を手にししましょう。

●全道の皆さんに提案します！

提案1…研究主題を全道18支部の英知でつくりあげる

全道ネットワーク会議の主要な活動テーマに、この研究主題設定の論議を位置付けます。そのために、本部事務局の中に研究部直属のネットワークプロジェクトチームを組織しました。このチームは、主題設定のための情報交換ばかりでなく、パソコンを活用しての造形教育全般の発信と受信の役割も担います。2000年までに新主題を設定するスケジュールで邁進します。全道の英知を集めましょう。

提案2…全道教育美術の審査を全支部の協力で

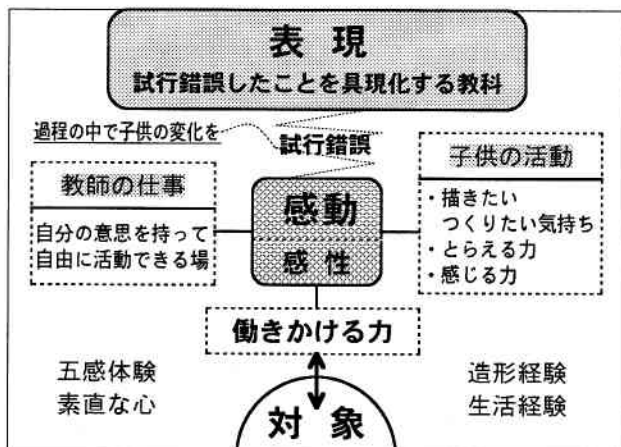
これまで、審査にあたっては本部の常任委員を中心に全道審査をしてきましたが、一層の充実を期待し、その審査員を札幌以外の全支部からも派遣してもらいたいとのお願いです。子供たちの作品を通して、共に語りあえる場となることを望んでおります。

●根室の地で課題の具現化を…そして、全道へ！

『感性から発し、躍動する力を育む、造形学習を!』大会テーマからもその意気込みを感じます。根室のスタッフと共に次の課題を全道の皆さんと追求したいと思います。

- ① 不断に追求を続ける精力的な授業改革の取り組み。
- ② 全道造形教育ネットワークの一層の飛躍。
- ③ 幼稚園から高等学校まで校種の壁を越えた人的交流。
- ④ 北海道から発信する、最先端の創造的題材の開発。

私も含めすべての造形教育教師は、子供・親・同僚から信頼される教師として、その資質の向上に努め、温かな瞳と燃える魂を、今こそ持ちたいと願っています。根室を、その熱い再確認の場としましょう。





第47回全道造形教育研究大会・根室大会

■平成9年7月28日(月) ～ 7月29日(火)

■1日目〔根室市立花咲小学校〕 2日目〔根室市総合文化会館〕

根室大会キャッチフレーズ

今こそ郷土根室を、豊かな感性で掘り起こそう！

～親潮の海霧と暁が織り成す大ロマン、そんな最果ての風土を生かして感性を磨き合ひましょう～

根室大会テーマ

「感性から発し、躍動する力を育くむ、造形学習を！」

1 根室大会日程

1日目

8:30	9:30	10:10	10:40	11:00	11:50	12:30	15:30	18:00	20:00
受付	開会式 研究発表	歓迎 セレモニー (柏陵中学校吹奏楽)	移動 休憩	研究授業 小中高8 学級公開	昼食	分科会(研究協議) 授業研究 資料提言	市内名所 へのスケ ッチ旅行	歓迎交流会 (根室グランドホテル)	

2日目

8:30	9:00	9:50	10:10	11:30	11:40
受付	体験学習〔造形遊び〕 「流木を使って」 ※造形ネットワーク	移動 休憩	記念講演会 講師 栗野武夫氏 演題『根室の植物』	休憩 準備	閉会式

----- 参加申込先 -----
〒088-17 根室市落石東135
根室市立落石小学校
第47回全道造形教育研究大会・
根室大会実行委員会事務局長
山口長伸 宛
☎ 01532-7-2031
FAX 01532-7-2040

2 根室大会参加費 3,500円〔開催要項・研究紀要・授業案等の資料代〕

(昼食費700円・スケッチ旅行バス賃2,000円・歓迎交流会費5,000円は、別途徴収します。)

第47回全道造形教育研究大会が、とうとう北海道の東の果て・根室市で開催されることになりました。私達根室造形教育連盟にとって、4半世紀間も待ち続けていた大会です。根室の多くの先輩達が、「根室で全道造形研を！」と、夢に見てきた大会が、47回にしてやっと実現できる喜びでいっぱいです。

根室造形教育連盟は、「会員による研究・研修活動を通じて、根室管内の造形(図工・美術)教育の振興を図る」ことを目的として結成された研究団体です。およそ4半世紀前の昭和48年の創設であり、発足以来「教科としての、図工・美術の指導研究を進める団体」として、地域に根

ざした地道な研究を推進してきました。

年間の主な活動として、総会、授業研究会、作品鑑賞会、実践発表会、実技研修会、全国展巡回作品展、交流会、親睦会等を実施しています。

また、「北海道造形教育連盟」にも所属し、全道の情報収集・交換の機会を持っています。毎年、夏季休業中に行われる「全道造形教育研究大会」へも、多くの会員が積極的に参加し、運営や資料提供等で協力体制をとっています。逆に、北海道造形教育連盟からは、「先進的实践者による講演会・実技講習会」の講師派遣等で、多大の恩恵を受けております。昨年度も、全道造形連盟顧問の

金井秀男先生をお招きして、絵画指導の基礎技術を学びました。参加者から、多くの賞賛の声、感謝の言葉をいただき、「根室造形教育連盟ここにあり！」と意を強くしたものです。このご恩は、根室大会の成功でお返ししようと思っています。

さて、「根室造形教育連盟」が発足して25年目に当たる今年度、「全道造形教育研究大会」を根室で開催することが決定され、昨年度は、その準備期間として、一段と充実した研修活動を推進しました。

お隣の釧路市では、10年に1回の割合で大会が開催されていました。しかし、根室ではホテルの客室数の不足や、札幌からJRで8時間もかかる遠距離のため、時期尚早として、逃げてきた嫌いもありました。

第44回釧路大会のレセプションの席で、「そろそろ根室でも！」という声があり、張り切って引き受けてはみたものの、実はたいへんなことを引き受けたという後悔もありました。しかし、賽は投げられたのですから、やるしかありません。

まず、根室造形教育連盟会員で、実際に動ける会員数を集め、管内の美術科免許状取得教員を洗い出してみますと、20数名しかおりません。中学校を例にすると、根室管内の7割近くの学校は、美術科を免許外の教員が担当している実態があります。そのために、美術科の実践では、先進校（根室造形教育連盟会員所属校）の実践が待たれているのです。34校の中学校のうち、美術免許所有者は半数の17名であり、そのうち経験5年未満が10名もいる現状の中で、本連盟では、各校の教育課程の編成作業にも積極的に支援を行い、根室の図工・美術教育振興にも大きく関わった実践をしていかなければならないことを再確認したのです。美術科免許所有教師の不足は、美術科の授業時数確保や、選択教科美術の未開設につながっています。「個性を生かす教育の充実」に努めなければならないと叫んでも、こと美術科においては、受け皿（美術科教員）不足の中で、計画倒れになっており、これらの課題解決が連盟の責務なのです。

そこで、対象を図工・美術サークル会員に広げ、会員の拡大に努めました。それで、退職された顧問も含めてやっと25名の会員に増員されました。

次に、授業者・提言者・司会者・助言者・記録者を選ぶために、実行委員会を組織しました。ところが、ここでも、根室管内における図工・美術科教育の課題が明らかになり、造形研への期待がふくらんできたのです。

ア 美術科免許外教員への教育課程編成、実施、評価に関わる研修への支援

イ 全道造形研への参加促進と研究成果の還元

ウ 教育課程の編成・実施・評価に関わる図工・美術科資料の作成と配布

エ 先進校の研究発表の還流促進

オ 選択教科「美術科」の研究実践の促進

こんな多くの課題をもって、第47回全道造形教育研究大会・根室大会が開催されます。何はさておいても、全道各地から、実践を引っ提げて根室に来てほしいのです。優れたものでなく、泥臭い地道な、誰でもできる実践を私達は求めています。

ここで、根室の宣伝を、大きな声で叫びます。

根室は、見所・食い所・描き所の多い所です。自然がいっぱいで、シマフクロウ・オジロワシ・エトピリカといった鳥類が多く、特に、春国岱では、タンチョウが首を長くして皆様を待っています。

キタキツネ・エゾリス・テン・オコジョといった動物も、人間と共存して生活しています。根室に入る手前の森林地帯では、エゾシカの道路横断が多く、交通事故も多く発生しています。エゾシカに会ったら、シカトしないで、交通ルールを教えるのも、造形研参加者の努めです。また、最近、野生のラッコがノサップ岬あたりに住み着いていますから、もしかしたら、会えるかもしれません。今年の2月には、根室市内から10kmの長節湖でワカサギ釣りをしている人の前にヒグマが現れ、エゾシカを担いで行くところを目撃されています。

ノサップ岬のオホーツク海側の北方原生花園には、ハマナス・コケモモ・ガンコウラン・ハクサンチドリなどの海浜植物、高山植物が咲き乱れ、もしかしたら、カラフトリシジミという珍蝶の歓迎もありそうです。

根室の自慢は、何と言っても新鮮な魚介類です。イキが良くコリコリピンピンしたタコ・オヒョウ・ツブ・ホタテの刺身。中でも絶品はサンマの刺身。メンメがふんだんに入ったあったか〜い鍋物。こんな大きなのがいるのかという驚きのタラバガニ。目玉が飛び出るくらい高価な目玉が飛び出た花咲蟹。真っ赤な色で鮮やかに眩しく光るころころ太ったホッカイシマエビ。ゴロと調味料が程良いハーモニーを奏でるマツタリとした珍味のイカの沖漬け。幻の魚・ケイジ。スケソのチャンチャン、ゴッコのおすいもの、マダラのチューの酢味噌和え……。

お土産は、棹前昆布、落石の長昆布、歯舞の昆布醤油・昆布納豆・昆布うどん、宅配便で花咲蟹！ 帰り道で、別海牛乳、中標津チーズ、標津羊羹、羅臼の開き鱈を買いあさりながら、知床峠を「知床旅情」を歌いながらドライブというのが、造形研参加者の定番です。せっかく遠い根室まで来るのなら、年休も取って半研半観、半竿半飲の気持ちで来て下さい。根室の仲間、大歓迎です。



～私の学校・私の実践～

「わが町の乙部粘土を活用して」

乙部町立乙部小学校

谷口光伸

乙部岳の麓に広がる乙部町。その乙部市街地のほぼ中央に乙部町立乙部小学校は位置し、全校児童数は207名、教職員15名の中規模の学校です。学校からは館の岬をはじめ、日本海の美しい海岸線を望むことができます。また、乙部町には、200万年以前の貝の化石を含んだ地層がそのままの形で保存された貝子沢化石公園を始め、縄文時代から擦文時代の埋蔵文化財包蔵地が114ヵ所あり、恵山式土器、刷毛目でこすったような模様を持つ北海道ならではの擦文土器が出土しています。

近年、町内の姫川地区に耐火度の高いカオリン質の粘土（姫川粘土）、富岡地区に可塑性、粘性に富む木節系の粘土（富岡粘土）と焼き物に適した粘土が発見され、その粘土を重量比で姫川粘土：富岡粘土＝1：2で混ぜた粘土（通称 乙部粘土）を用いて地元「乙部粘土研究会」によって作品化の試みが進められております。

本校でも、ここ数年、乙部粘土研究会のご協力のもと、練りあがった粘土を分けていただき、5、6年生の子供たちが、図工科の時間にマグカップや鉛筆立て、花瓶等を製作しております。

子供たちにとって焼き物の授業はとても楽しみにしているようで、特に使用する粘土が乙部町内で掘られたものであると知ると、自分達の住む町に焼き物に適した粘土があることに、子供たちの驚きは大きいようです。

「乙部粘土を活用して5年生で実践した内容」

はじめに簡単に焼き物の歴史にふれ、乙部町内からも多数の土器が出土していること。また、これから使用する粘土は町内で掘られた乙部粘土であること等の説明を行いました。製作するものに関しては、子供たちの意見を取り入れるためにアンケート調査（事前調査）を実施しました。調査結果からは、圧倒的に実際に使えるものを作りたいという希望が多くありました。そこで、子供たちの生活に身近で、楽しく使用できるもの。さらに焼き物として最も基本的な円筒形をした形。飲み物を入れて口に運ぶという目的がはっきりしていることから「マグカップ」を製作することにしました。

本校で「焼き物」を授業として扱うのは、5年生からで、ほとんどの子供たちにとって、初めての焼き物製作となります。そこで、できれば全員に完成の喜びを味わわせ

たいと考え、製作方法としては、手びねりやひもづくり等（一定の技術を必要とする）は避け、比較的、技術を要しない芯材を用いた板づくりでの製作方法を選択しました。また、芯材には、子供たちにとって身近な素材である空き缶（250mlのスチール缶）を選択しました。この方法では、マグカップの他、花瓶、埴輪等を作ることができ、応用範囲も広いと、子供たちの技術面を考えると最も適している方法であると考えています。

(1) 芯材となる缶の飲み口部分を除いた側面と底面に新聞紙を巻き付け、接着テープで止めます。（この時の巻き付けがゆるいと完成時のカップ内部に新聞紙の折れ跡が残ってしまうのでしっかり巻き付ける。）(2) 粘土の塊を両手を使って厚さが1cm程になるまで叩き広げます。（叩き練りの要領で叩き広げることによって粘土を締め、同時に脱気効果も期待できる。）(3) 粘土が十分広がったところで、缶の側面に両手できっちり粘土を巻き付け、余分な部分をカッターで取り除き、土べでつなぎ目を接着します。同じ要領で、底も作ります。(4) 把手については粘土を棒状に伸ばし長さ12cmに切り、アーチ状に乾かしておきます。側面、底ができあがった後、土べを用いて接着します。（接着後、完成まで把手を持つことはしない。）把手が接着した段階で、表面に模様を加え成型を終えます。(5) 成形後、粘土は、乾燥していくと収縮するので、硬い芯材をそのままにしておく作品は、ひび割れてしまいます。そこで成形後は、すばやく芯材を作品から抜き取っておきます。その後、直射日光の当たらないところで、2週間ほど乾燥させ素焼きを行い、石灰系の透明釉をかけ、本焼きを行いました。

このような授業実践を通して、将来、地元乙部の粘土を用い陶芸の仕事に携わってくれる子供が一人でも育ってくれればと願っております。



留萌大会にむけて

留萌地方美術教育研究会 研究部長
増毛町立舎熊小学校 教頭
池田 忠喜

第48回 全道造形教育研究大会 留萌大会

平成10年9月10日(木)～11日(金)

大会主題
造形への誘い
— 悠 — 遊 — 優 —
留萌へ
～楽しさにひたり伸びやかに表す
造形活動と共感し寄り添う指導～

【第1日目】 10日(木)

12:30	13:00	13:30	14:00	15:30	18:00
受付	開 会 式	全 体 会	講 演 会	移 動	交 流 迎 会

【第2日目】 11日(金)

9:00	9:30	10:20	11:00	12:00	13:00	15:00	15:30	16:00
受付	公 開 授 業	休 憩 ・ 移 動	分 科 会 授 業 研 究 協 議	昼 食	分 科 会 提 言 研 究 協 議	移 動	閉 会 式	

■主題の具現化

悠 ♥子供を駆り立てたり性急さを要求しては、子供一人一人の個性的表現は望むことが出来ません。ここに、しなやかな個性的表現を可能にする創造の原点として**悠**を見いだすことができます。

私達は、教師が紹介する題材や提案に基づいて、子供が豊かに自分の経験や直観を働かせ「ゆったりと自己に没入」「悠々とイメージの世界に没入」ができるような

◆表現活動の楽しさを味わうための題材の選択や開発・提案や提示の工夫

◆表現活動の楽しさを味わうための指導計画や指導過程の工夫 **を目指します。**

遊 ♥「遊び」は子供にとって知恵を磨き、心の中から沸き上がる創造性を磨くものです。また、「遊び」は心にゆとりをもたらし、心の楽しさや新たなエネルギーを生みます。そしてこの「遊び」

を受入れることにより、造形活動を膨らませ、子供の可能性を無限のものとする事ができる原点として**遊**を見いだすことができます。

私達は、子供自身が見つけた表現の思いや感じについて、その子らしい想像力を働かせ「色や材料や形と楽しく遊ぶ」「イメージの世界で楽しく遊ぶ」ことができるような

◆表現活動の楽しさを味わうための色や形・材料・イメージの世界と主体的にかかわり合う学習活動の工夫 **を目指します。**

優

♥優しさは、全ての行為・行動・交流の源であって欲しいものです。子供一人一人に寄り添い、「優しさ」「共感」をもって経験の少ない子供たちに、紹介したり、提案したり、相談したりすることは、学習活動を支えるために必要なことです。このような子供たちにとって有効なものを積極的に生かす支援の原点として**優**を見いだすことができます。

私達は、子供一人一人が自分らしい表現・自分らしい表現の思いを持ち、自分らしい表現方法で工夫していくように、その願いや方向を尊重しながら子供たちが自ら表現を進めていくことを決して先回りしないで支えていくような

◆表現活動の楽しさを味わうための支援を中心とした指導と評価の工夫 **を目指します。**

■ 留萌大会への願い

留萌地方美術教育研究会は、会員総数40名弱の小規模の団体であり、物理的に全道大会開催地に見合う組織力とは言いがたいものがありますが、全会員の総力を結集して臨みたいと考えております。その中で、会員相互の自己変革を求め、その事によって全道よりおいで頂く多くの方々にとって少しでも深まりのある研修の場を！と考えております。参会されるの方々にとっても、開催する我々にとっても意義ある大会となりますよう、今、その歩みを進めているところです。

第24回北海道教育美術展

第23回 奨励賞作品



早来町立遠浅小 6年 西田 有子

北海道教育美術展は、全道各地の保育所、幼稚園、小学校、中学校の子ども達の作品を集めた道内最大規模の展覧会です。子どもの想いにあふれ、素直でのびのびとした作品が多く、指導者の熱意と共に、全国的に高く評価されています。

今年度も、子どもらしく楽しい作品、豊かな感性にあふれた作品を期待しております。

日常の学習で取り組まれた作品を多数応募くださいますようお願いいたします。

【応募規定】

◇絵画、版画、デザイン等の作品とし、学校(園)を窓口として応募する。

◇大きさは4つ切り。4つ切り以下の作品は4つ切り大の台紙を貼ること。

◇一人1点の出品とする。

また、新しい表現の作品についても検討され、次のような基準で半立体作品も取り上げられています。

- ・積み重ねてもつぶれない、かさばらないこと。
- ・接着が強固ではがれないこと。
- ・画鋸で展示が可能な重量であること。

あ と が き

25年の歩みの中から芽吹いた根室大会。造形教育に対する情熱は全道の会員に多くのものを訴えるにちがいありません。留萌も燃えています。たくさんの仲間と集みましょう。そして、感想・御意見を連盟報にお寄せ下さい。

安木 尚博(幌南小) 益村 豊(山鼻南小) 土肥 宏充(厚別北小) 小泉 誠(開成小) 中山 龍男(手稲西中) 毛馬内 國夫(桑園小)

会期 平成10年1月10日(土)~15日(休)

主催 北海道造形教育連盟

北海道新聞社

後援 北海道教育委員会

協賛 さっぽろ東急百貨店



株式会社 サクラバス

全支部の協力で北海道教育美術展の審査を

今年度の総会で全道教育美術展の審査を全支部・サークルの協力を得て実施することが決定されました。

子供の感性豊かな作品を通して、造形活動の未来をともにする学習の場として審査会を活用することになりました。財政的な問題(旅費等)や時間的なことも問題となってくると思いますが、全道の子供たちの作品審査を通して学び合う場ができた価値は大きいと思います。

奨励賞の作品を研修会で生かして!

奨励賞作品は、造形連盟事務局まで申し込みいただければ貸し出しをします。また、今年度からはスライドも用意しています。(ただし、貸し出し料・送料 実費負担)

締切 平成9年12月16日(火)

問い合わせ先

札幌市立白石小学校 田口 和男

TEL 011-861-9265 FAX 011-861-2309